

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 5 日現在

機関番号：15301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26770256

研究課題名(和文) 修道院と教区共同体の相互影響関係と社会形成に関する比較研究

研究課題名(英文) A comparative study on mutual effect relationship between monasteries and parish communities

研究代表者

大貫 俊夫 (Ohnuki, Toshio)

岡山大学・社会文化科学研究科・准教授

研究者番号：30708095

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、修道院と世俗社会の相互影響関係を分析し、中世ヨーロッパ社会の形成において修道院が果たした役割を新たに見出した。12～13世紀の具体的な事例から、シトー会修道院が既存の教会・礼拝堂の再建に貢献したこと、教区教会新設と農村共同体の形成に深く関わったこと、そして農村の社会秩序とアイデンティティ形成に影響を与えたことの3点を明らかにした。他のドイツ、フランス地域のシトー会修道院に関する史料・研究文献に基づいて、こうした現象が各地で相応に見られるのではないかという見通しを得た。

研究成果の概要(英文)：This study analyzed the mutual influence relationship between cistercian monasteries and secular society and found a new role of monasteries in the formation of medieval European society. From concrete examples of the 12th-13th century, it was clarified that the cistercian monasteries contributed to the rebuilding of existing churches and chapels, the deep involvement in the establishment of parish churches and the formation of rural communities, and the rural social order and identity formation. On the basis of historical materials and research literature on other cistercian monasteries in Germany and France, I obtained the prospect that these phenomena can be seen in various places.

研究分野：人文学

キーワード：西洋史 中世史 修道院 修道制 シトー会 教会史 キリスト教 社会史

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

1970年代、K. Elm、K. Schmidt、そしてその影響を受けた関口武彦らによって、修道院と世俗社会の相互影響関係が検討されるようになった。ここから明らかになりつつあるのは、修道制という聖の領域と都市・農村といった俗の領域は峻別されるものではなく、社会的交流によって相互に影響を行使し、一体となって中世社会を構成したという認識である。この修道院に関する社会史的観点と手法は、今後追求の余地が非常に大きい分野であり、それなくしてヨーロッパ中世社会の実態解明は困難である。

これまで法制史的観点からフランスの J.-F. Lemarignier やドイツの P. Landau らが修道院と教区教会の関係を検討し、11世紀以降、それまで俗人が有していた教区教会の保護権(パトロナートゥス)が次々と修道院の手に渡ったことが明らかにされた。ここに修道院と教区共同体の関係史研究が始まったわけだが、そこでは「教区教会の保護権に基づいて教会収入を搾取する修道院」対「教区司祭+教区民」という対立構図が描かれる。さらに S. Epperlein らが依拠するマルクス主義史観により、この構図は過度に強調されてきた。一方、比較的新しい H. J. Mierau はそうした対立構図とは距離を置くものの、修道院と教区教会の法的関係に終始している。したがってこの関係史は、伝来する史料の豊富さとは裏腹に、非常に一面的なとらえ方をされてきたのである。しかし、修道院と教区共同体の相互依存関係と地域社会存続のための協同体制の一端が申請者の博士論文で明らかになっており、この新しい視座からその西欧・中欧における全容の解明が喫緊の課題である。

2. 研究の目的

(1) 時代・地域的枠組み：分析の地理的枠組みは、現在のフランス東部ムーズ川流域からドイツ西部ライン川流域の間とする。本研究が扱う時代は、12世紀から14世紀までとする。中世盛期～後期を見渡すことで、一つ一つの教区共同体が修道院との関わりにおいていかに変容したのかを長いスパンで追うことができよう。

(2) 具体的な目的：

シトー会修道院と教区教会の相互影響関係：教区司祭や教区民といかなる法的関係にあり、彼らと法的・儀礼的コミュニケーションをいかに行っていたのか、そしてその結果教区民の宗教生活をいかに指導し、教区の経済・社会問題にいかなる対応をとり、逆に教区司祭・教区民からいかなる影響を受けたのか、を解明する。

境域における王権・教皇権の役割：遠隔からの影響力によって、修道制と教区教

会の関係がいかに再編成されたのかも明らかにする。

托鉢修道会の活動との住み分けの問題：地域内の托鉢修道士と教区教会の関係を精査し、シトー会と托鉢修道会それぞれの役割の相違と住み分けの状況を明らかにする。

3. 研究の方法：

(1) 方法：具体的な研究方法は以下の5点である。

教区教会に関わる証書から発給者、年月日、場所、案件を抽出し、エクセルを用いてデータベースを作成する。

のデータベースをもとに地図を作成し、修道院と関係を持つ教区教会の地理的分布を把握する。

証書の内容については、特に修道院の法的地位、権限、教区民に対する具体的な貢献の仕方(教会の建築、司牧、貧民給養など)に注目する。一方で、教区共同体への関与を深めることで修道規範の変容を余儀なくされる修道院側の状況も観察する。

修道院と教区民の間で生じる紛争に注目し、紛争解決のプロセスとそこでのコミュニケーションの仕方を分析する。特に天災、戦災等教区民が生存基盤を失いかけた局面を重要視する。

教区教会に対する皇帝、国王、教皇、司教、世俗諸侯らの介入や具体的な法行為を、大小様々な文脈の中に位置づけて理解する。ここでは、証書の他 Corpus Iuris Canonici 等の教会法史料も活用する。

(2) 計画当初の方法からの改善：

計画では地域内のシトー会修道院を網羅的に扱う予定であったが、史料を分析する中で検討すべき論点が多岐にわたることが分かった。史料分析の水準を落とすことなく、こうした広がりをもフォローするため、研究対象とする修道院数を限定することにした。その代わりに、史料・研究文献の収集については、当該地域を超えドイツ・フランス各地域を対象とし、文化圏間のバランスに十分留意することで、比較史を旨とする研究に差し支えないようにした。

4. 研究成果

(1) 具体的な研究成果：具体的なケーススタディから、以下のことを明らかにすることができた。

既存の教会・礼拝堂の再建：独仏国境地帯の事例を検討することで、教会・礼拝堂のシトー会修道院への委譲が、修道院単独の経済的利得を超えて、農村人口の流出と再定住という地域的課題に接続していた。

教区教会新設と農村共同体の形成：シトー会修道院は、教区教会の復興だけではなく、元々教区が置かれていなかった土地を獲得し、そこで農耕活動を営みつつ教区

の新設に主体的に関与することもあった。司教による教会パトロナートの委譲は、シトー会修道院のこうした複合的な働きを見越してのことだったのではないかという理解が導かれる。むしろそのような司教の要請を想定しないことには、修道院が収入を期待できない教会を積極的に受け取るはずがない。一方修道院にとって、経済的収益が当分望めない教会をあえて受領する理由は、獲得したばかりの所領で労働する人々のために司牧の場を必要としていたためだと考えられる。

農村の社会秩序とアイデンティティ形成への関与：修道院が小教区教会の救貧事業や司祭叙階式を通じて、小教区共同体のアイデンティティ形成に影響を与えたのではないかという見通しが得られた。ただし、こうした観点に該当する史料はほとんどなく、極めて単発的な事例が見出されるに過ぎない。

以上から、修道院による教会パトロナートの獲得を梃子にして、修道院所領の枠組みを超えた内外の住民の宗教的、社会的、さらには政治的統合が促進されたことが明らかとなった。

(2)視野の拡大：以上の具体的な分析と並行して、とりわけドイツ、フランス地域のシトー会修道院に関する史料・研究文献を収集、分析した。そして、これら史料・研究文献から、(1)で明らかとなった現象が各地で相応に見られることなのではないかという見通しを得ることができた。もしそうだとすれば、シトー会に限らず修道院の所領経営が盛期中世ヨーロッパ社会において有する意義について大きく認識を改める必要性が出てくるであろう。視野の拡大を迫られたことで、以下の課題が浮き彫りとなった。

シトー会修道院と教区教会との関係が希薄とされるイングランドについて具体的に考察し、関係が密接なドイツ地域と差異が生じる背景を明らかにする。

を研究する前提として、シトー会士の活動範囲とそのための諸条件を、規範史料に加え叙述史料なども豊富に用いて明らかにする。

農村部に展開したシトー会は都市部に集中した托鉢修道会とは相互補完的な関係にあったと考えられることから、引き続き両修道会の勢力範囲の重なり具合を精査する。

(3)今後の展開：以上の知見は、5.「主な発表論文等」で公開した研究に続き、今後1~2年の間に単著(ドイツ語、2017年刊行予定)、論文、学会発表などで公にする予定である。また、本研究プロジェクトに基づいて国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)が採択され、来年度にかけて本研

究を進展させることになっている。そこでは、個人研究に加え、ドレスデン工科大学比較修道会史研究所の所長ゲルト・メルヴィル教授、研究員クリスティーナ・アンデンナ博士、イェルク・ゾントーク博士、ミルコ・プライテンシュタイン博士などを日本に招き、岡山大学などでシンポジウムとワークショップを開催する予定である。これらの活動の中で、本研究の成果が十分に還元されるであろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

大貫俊夫、盛期中世におけるシトー会修道院の小教区 = 農村共同体形成への関与に関する研究、西洋史研究、査読有、第 44 号、2015、1-23

大貫俊夫、書評 杉崎泰一郎著『修道院の歴史—聖アントニオスからイエズス会まで—』、上智史学、査読無、第 60 号、2015 年、113-120

<http://digital-archives.sophia.ac.jp/repository/view/repository/00000035481>

大貫俊夫、書評 ジャイルズ・コンスタブル(高山博監訳、小澤実・図師宣忠・橋川浩之・村上樹訳)『十二世紀宗教改革 修道制の刷新と西洋中世社会』、史苑、査読無、第 75 巻 2 号、2015 年、426-433

https://rikkyo.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=11061&item_no=1&page_id=13&block_id=49

[学会発表](計 5 件)

Toshio Ohnuki、Comparative Study on Contributions of the Cistercians to the Communal Life of Parishes in Medieval Germany, Medieval and Early Modern Religious Histories: Perspectives from Europe and Japan: Second Meeting, Istituto Storico Italo-Germanico, 2015 年 12 月 11 日、トレント(イタリア)

大貫俊夫、盛期中世ドイツにおけるシトー会修道院の小教区共同体への貢献に関する比較研究、早稲田大学高等研究所セミナーシリーズ 新しい世界史像の可能性、2015 年 10 月 24 日、早稲田大学(東京都・新宿区)

Toshio Ohnuki、The Cistercians and their Contribution to the Communal Life of Parishes in the Middle Ages, International Medieval Congress 2015、2015 年 7 月 6 日、リーズ(イギリス)

大貫俊夫、シトー会修道院と教区教会 - シトー会士の共同体形成への関与に関する比較研究 - 、2014 年度西洋史研究会大会、2014 年 11 月 15 日、東北大学（宮城県・仙台市）

Toshio Ohnuki、A Reconsideration of the Cistercian Reichsvogtei: Rudolf I of Habsburg, Philip III, and the Cistercian General Chapter、International Medieval Congress 2014、2014 年 7 月 8 日、リーズ（イギリス）

〔その他〕

ホームページ等

<https://researchmap.jp/ohnuki/>

6．研究組織

(1)研究代表者

大貫 俊夫(OHNUKI, Toshio)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・
准教授

研究者番号: 30708095

(2)研究協力者

原田 晶子(HARADA, Akiko)

東京大学大学院総合文化研究科・学術研
究員

研究者番号: 70608653